

2. 火山の概況

(平成16年9月16日～平成16年9月22日)

浅間山では16日～17日に小噴火が連続的に発生し、火口底に溶岩が確認された。23日(期間外)に中爆発が発生した。火山活動度レベル(以下レベルと記載)は3。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では火山性連続微動が継続する等活動のやや活発な状態が続いている。レベルは2。

霧島山の御鉢の噴気活動はやや活発な状態が続いている。



図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		三宅島	霧島山	薩摩硫黄島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号			
39	9/16-9/22	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	
38	9/9-9/15	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	
37	9/2-9/8	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◆	●	●	
36	8/26-9/1	②→③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	●	●	◆	
35	8/19-8/25	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◆	●	●	◆

注1 記号の意味

- ▲: 噴火した火山
- : 活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に变化があった火山
- ◆: 前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
- ◇: その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

▲ 浅間山 [噴火・爆発・地震・降灰・火映・溶岩] レベル3 (山頂火口で小～中噴火が発生する可能性がある) <期間外の記述を含む>

小噴火の連続的な発生が16日未明から17日夕方まで続いた。上空からの観測で火口底に溶岩が確認された。23日(期間外)に中爆発が発生した。

16日04時頃から小噴火がほぼ連続的に発生するようになり、17日18時30分頃まで続いた。噴火の発生頻度はその後低下し、18日21時03分の小噴火発生以降、期間の後半は噴火の発生はなかった。噴火回数は、連続的な噴火終了後の17日は2回、18日は32回であった。噴火に伴い地震活動も活発化し、地震回数は16日が1,385回、17日が639回であった。また、火口の北北東約2.5kmに設置した傾斜計で15日から16日に山下がりの傾斜変化が見られた。噴火に伴う有色噴煙の高さの最高は火口縁上1,500mで、噴煙は16日夜～17日朝には南～南東に流れ、降灰が関東地方南部の広範囲で報告された。最も遠い所では千葉県勝浦市から降灰の報告があった。

火映が19日から期間の終わりまで、夜間を中心に山麓に設置された高感度カメラで時々観測され、19日夕方～20日03時頃には軽井沢測候所(火口の南約8km)からも肉眼で観測された。

18日に長野県の協力により実施した上空から火口観測によると、赤外熱映像装置による観測で火口底に円形状に直径約100mの高温部が観測された(図2)。火口内は噴煙が多く目視による火口底の様子

は確認できなかった。また、国土地理院が16日に行った合成開口レーダーによる観測では、火口底のやや北東部に同心円状の地形の高まりが新しく形成されていることが判明した。これは上記高温部に対応し、溶岩が火口底に出現したことを示していると推定される。

なお、期間外であるが、23日19時44分に中爆発が発生した。雲のため噴煙の状況は不明であったが、噴火に伴う火山レキや火山灰が火口の北～北東の婦恋村及び長野原町で確認された。噴火に伴い発生した地震で軽井沢町追分及び御代田町御代田で震度1を観測した。また、噴火に伴い火口の北北東約2.5kmに設置した傾斜計で山下がりの傾斜変化が見られた。

◇ 伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙・火山ガス・地震]

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上 800mであった。

21日に東京消防庁の協力により実施した上空からの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量 3,800～6,700 トンで依然多い状態であった。

振幅の小さいやや低周波の地震は、1日あたり 4～27回と少ない状態であった。

● 阿蘇山 [湯だまり・微動] レベル2（やや活発な火山活動）

監視カメラにより中岳第一火口に湯だまりが期間を通して時々観測された。湯だまりの色、量、土砂噴出の発生等は不明であった。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上 300m（前期間 200m）であった。

期間中、火山性連続微動が継続した。孤立型微動の発生回数は今期間 415回であった（前期間は 319回）。地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

御鉢火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。17日、20日及び22日に時々噴気が監視カメラで観測され、その最高は火口縁上 50mであった。

◇ 桜島 レベル2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火は発生しなかった（前期間もなし）。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

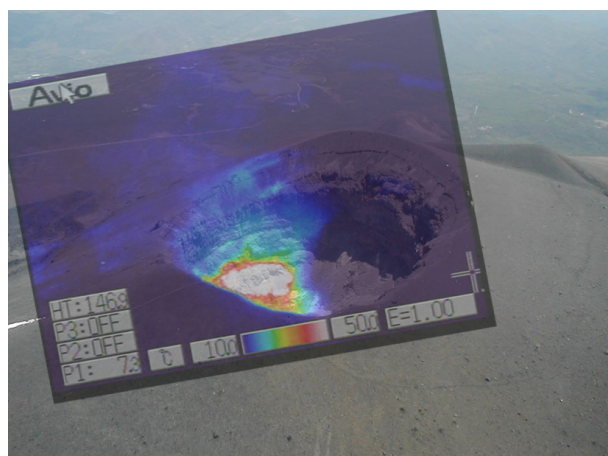


図2 浅間山 9月18日の上空からの観測で赤外線映像装置により撮影した画像。南西方向から撮影。過去に撮影した火口の写真（平成11年5月20日撮影）を重ね合わせてある。火口底北側の白い部分が高温部。火口の直径は約450～500m。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第27号	16日 10:00	噴火が継続し、16日04時頃から小噴火がほぼ連続的に発生。軽井沢測候所で、噴火に伴う弱い爆発音及び前日から断続的に降灰を観測。レベルは3。
	火山観測情報第28号	16日 16:06	小噴火がほぼ連続的に発生。軽井沢測候所で降灰及び断続的に弱い爆発音を観測。レベルは3。
	火山観測情報第29号	16日 19:40	小噴火がほぼ連続的に発生。18時40分頃より火口縁付近で噴石の飛散を確認。レベルは3。
	火山観測情報第30号	16日 21:20	小噴火がほぼ連続的に発生し、広範囲で降灰が確認されている。降灰地域は関東地方南部に及ぶ。レベルは3。
	火山観測情報第31号	17日 00:25	小噴火がほぼ連続的に発生し、広範囲で降灰が確認されている。降灰地域に関する追加情報。レベルは3。
	火山観測情報第32号	17日 10:05	小噴火がほぼ連続的に発生しているが、発生頻度はやや低下。軽井沢測候所で観測されていた断続的な弱い爆発音は17日06時20分頃収まる。レベルは3。
	火山観測情報第33号	17日 16:10	小噴火がほぼ連続的に発生。噴火に伴い発生した地震の回数は16日23時以降次第に減少。レベルは3。
	火山観測情報第34号	18日 10:00	噴火の発生頻度は低下したが、引き続き小噴火が時々発生。16日04時頃からほぼ連続していた小噴火の発生は、17日18時30分頃収まった。レベルは3。
	火山観測情報第35号	18日 16:00	噴火の発生頻度は低下したが、引き続き小噴火が時々発生。上空からの火口観測で、火口内に直径約100mの円形状の高温部を観測。レベルは3。
	火山観測情報第36号	19日 10:10	噴火の発生頻度は低下し、18日21時03分以降噴火の発生はなし。レベルは3。
	火山観測情報第37号	19日 16:00	噴火の発生頻度は低下し、18日21時03分以降噴火の発生はなし。国土地理院が16日に行った合成開口レーダー観測で、火口底のやや北東部に同心円状の地形の高まりが新たに形成されているのを確認。レベルは3。
	火山観測情報第38号	20日 10:10	19日15時～20日09時の活動状況（噴火はなし、19日夕方から20日03時頃まで断続的に肉眼で火映を確認）。レベルは3。
	火山観測情報第39号	20日 16:00	20日00時～15時の活動状況（噴火はなし、19日夕方から20日03時頃まで断続的に肉眼で火映を確認）。レベルは3。
	火山観測情報第40号	21日 10:00	20日15時～21日09時の活動状況（噴火はなし、夜間山麓の高感度カメラにより断続的に火映を観測）。レベルは3。
	火山観測情報第41号	21日 16:00	21日00時～15時の活動状況（噴火はなし）。レベルは3。
火山観測情報第42号	22日 10:00	21日15時～22日09時の活動状況（噴火はなし、夜間山麓の高感度カメラにより断続的に火映を観測）。レベルは3。	
火山観測情報第43号	22日 16:00	22日00時～15時の活動状況（噴火はなし）。レベルは3。	
三宅島	火山観測情報第517号 ↓（1日2回発表） 火山観測情報第530号	16日 09:30 ↓ 22日 16:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
阿蘇山	火山観測情報第46号	17日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（湯だまりの高温状態継続、湯量約7割、小規模な土砂噴出が時々発生、微動連続状態）。レベルは2。